

2024 年度「若手研究者支援」国際学会発表 報告書

タイトル : Emotional Dysregulation as a Third Core Symptom in Adult ADHD: Adapting the WRAADDS for Japanese Use.

氏名 : 中下 綾子

所属 : 人間発達科学専攻 発達臨床心理学領域 博士後期課程 2 年

期間 : 2024 年 6 月 25 日~2024 年 6 月 29 日

学会名 : Society for Psychotherapy Research : 55Th International Annual Meeting, Ottawa, Canada

場所 : University of Ottawa

発表者名 : 中下 綾子

発表形式 : 口頭発表およびディスカッション (2024 年 6 月 28 日 16:30-18:00 のうち 25 分間)

学会発表報告 :

1. 学会発表の概要

2024 年の Society for Psychotherapy Research (SPR) 学会において、博士論文に向けた研究計画として、成人注意欠如多動症 (成人 ADHD) における感情制御困難に関する尺度翻訳の意義について口頭発表を行った。感情制御困難とは、状況に応じて適切に感情を調整することが困難な状態を指し、成人 ADHD に特有の症状の一つとして近年注目を集めている。この問題が、成人 ADHD におけるメンタルヘルスに大きな影響を及ぼすことが研究で示されており、特に不注意や多動・衝動性といった伝統的な ADHD の症状と並んで、感情制御の問題も重要な診断の一環として考慮すべきであるとの議論が進んでいる (Faraone et al., 2019)。これまでの修士論文では、成人 ADHD が適応的な感情制御方略を習得することが、彼らの精神的健康にとって極めて重要であることが示されており、この知見を踏まえて、感情制御困難を適切に評価するための尺度翻訳研究が必要である。感情制御の問題を ADHD 診断や支援の枠組みに組み込むことにより、成人 ADHD に対する包括的な理解とより効果的な介入方法の確立に寄与する可能性が高いと考えられる。

2. 学会発表の意義と得られた成果

今回の発表では、感情制御困難を下位尺度に含むユタ基準に基づいた成人 ADHD 尺度 (SR-WRAADDS; Marchant et al., 2015) の翻訳研究を今後行うという計画を発表した。この尺度を翻訳し、成人 ADHD における感情制御困難の実態をより精緻に把握することが、この分野における新たな支援方法の開発に貢献すると期待される。特に感情制御に困難を抱える成人 ADHD 患者に対する心理療法の効果的なアプローチを模索するためには、彼らが抱える感情制御の問題を具体的に測定できる尺度が不可欠である。今回の SPR 学会での発表を通じて、修士論文で得た知見を基に、感情制御の問題に関心を持つ国際的な研究者と意見交換を行い、翻訳研究に向けた具体的なアプローチや今後

解決すべき課題についても貴重なフィードバックを得た。

3. 今後の展望

今後は、翻訳した尺度を用いて成人 ADHD における感情制御困難の実態調査を本格的に進めていく予定である。この実態調査では、当事者の視点を重視し、成人 ADHD が経験している感情制御の困難を明らかにすることを目指す。これにより、診断の精緻化と支援体制の充実に向けた新たな知見を提供することが期待される。また、研究の成果は *Journal of Attention Disorders* などの国際学術誌に投稿し、最終的には博士論文としてまとめる予定である。今回の学会参加を通じて得た国際的な研究者との交流や新しい研究方法を積極的に取り入れながら、感情制御困難に焦点を当てた成人 ADHD の研究をさらに深化させていく計画である。

参考文献

Faraone, S. V., Rostain, A. L., Blader, J., Busch, B., Childress, A. C., Connor, D. F., & Newcorn, J. H. (2019). Practitioner review: Emotional dysregulation in attention-deficit/hyperactivity disorder - Implications for clinical recognition and intervention. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, 60(2), 133–150.

Marchant, B. K., Reimherr, F. W., Wender, P. H., & Gift, T. E. (2015). Psychometric properties of the Self-Report Wender-Reimherr Adult Attention Deficit Disorder Scale. *Annals of Clinical Psychiatry: Official Journal of the American Academy of Clinical Psychiatrists*, 27(4), 267-77;quiz278. Scopus.

なかした あやこ／お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科

指導教員のコメント

(本文 日本語：MS明朝、英数字：Century、行間：固定12pt、サイズ：10.5pt、300字程度)

中下さんは、今回の学会参加を通じて自身の注意欠如・多動症の成人の方に関する感情制御困難の研究結果を広く海外の研究者に対して発表するために、国際学会に参加しました。学会の場では、中下さんを含む3名のグループで口頭発表を行い、発表者と聴衆との自由な意見交換の機会に恵まれたそうです。同じ領域の研究者だけではなく、異なる専門分野を持つ研究者との意見交換を通じて、現在取り組んでいる研究テーマに関する助言や新たなアイデアを得たということでした。また、感情制御困難に関する研究を行う他の研究者の発表に参加し、新たな研究手法や理論について多くの知見を得ることができたようです。今回の学会参加に向けた準備の過程では、いかにして自身の研究の重要性を簡潔に、そして効果的に伝えるかという点について特に試行錯誤を重ね、自分なりに納得できる発表をすることができたことが、自信と更なるモチベーションにつながったようです。

これらの貴重な経験を通じて、中下さんが今後ますます自身の研究に積極的に取り組むことを期待しています。

(指導教員の所属 お茶の水女子大学基幹研究院・砂川芽吹助教)